

## 第6回 シアトル小児病院研修報告



兵庫県立こども病院 腎臓内科 中川 拓

### 1.はじめに

2008年度に始まったシアトル小児病院研修はこれまでに17名が参加し、そして今年で6回目を迎えました。今回は私を含めた医師3名と看護師1名の計4名が2014年3月に4週間の研修に参加させていただきました。

個人的な興味でまとめた過去5年間のメンバー構成です。

	外科系医師	内科系医師	コメディカル
第1回(2008年度)			
第2回(2009年度)			
第3回(2010年度)			
第4回(2011年度)			
第5回(2012年度)			
第6回(2013年度)			
第7回(2014年度)	???	???	???

←来年はどうなるか？

まず私がこの研修に参加するにあたって掲げた研修目標が三つあります。それは以下の通りです。

#### 【研修目標】

#### ①入院診療、外来診療、検査・治療

日米間・施設間での違いを学び、今後の診療にいかせる部分を見つける。

#### ②透析、腎移植

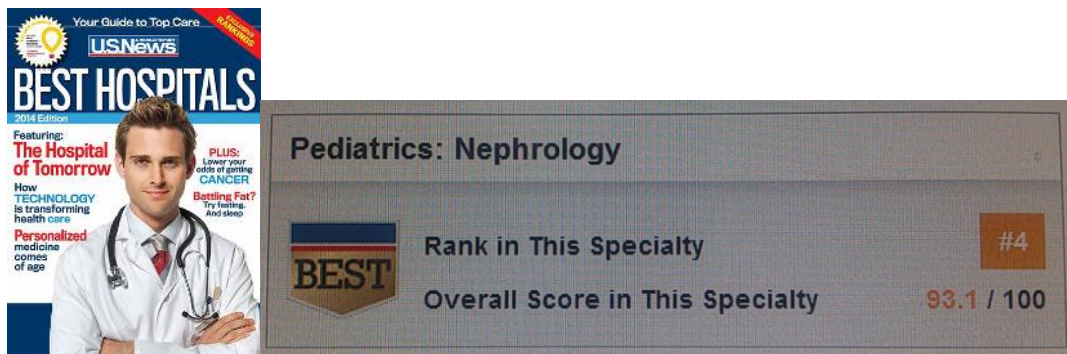
現在当院では行っていない慢性維持血液透析、腎移植について学ぶ。

#### ③教育システム

腎臓内科医を育てていくためのシステムについて学び、当院での教育システムにいかす。

## 2. シアトル小児病院の腎臓内科概説

シアトル小児病院の腎臓内科は、2013年度のU.S NewsのBest Hospitalsで全米第4位にランキングされています。このランキングは、アメリカ3大ニュースメディア（他、タイム、ニューズウィーク）であるUS News & World ReportがRTI(Research Triangle Institute) international, North Carolina research campusやコンサルティング会社などに依頼しChildren Hospital Association(CHA)に登録している各病院(179施設)や専門家(150名)への長期の調査を行い、その結果を解析して作成されています。これだけ評価の高い場所で研修できるということで、出発前から期待に胸を膨らませていました。



シアトル小児病院の腎臓内科の医師はスタッフが12名、フェローが6名、レジデントが複数名在籍し、その他に、看護師が6名、栄養士2名、ソーシャルワーカー3名、秘書などがおり、すべてをあわせると腎臓内科関連だけで30名以上いることに驚かされました。シアトル小児病院の腎臓内科の入院患者数は当院と同じですが、外来患者数、腎生検数、外来の透析患者数、腎移植数などはどれをとっても当院よりもかなり多く、それはこれだけ豊富なメンバーがいることに裏付けされているのだと感じました。



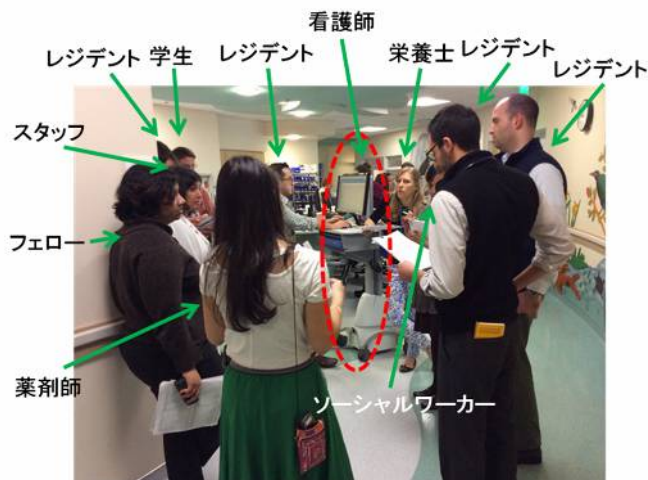
	シアトル小児病院	当院
入院患者	1000人/年	1000人/年
外来患者	5000人/年	3000人/年
腎生検	125件/年	40件/年
透析(外来)	35人/年 (1/3:HD, 2/3:PD)	5人/年 全例PD
腎移植	15-30件/年	未施行

このメンバーの中でフェローに関しては、1年目が主に専門分野の臨床を行い、2週間毎に入院診療、外来診療、透析室とローテーションを行います。2、3年目は主に研究を行い、臨床は週1回程度の外来診療のみを行うというように決められています。このフェローの3年間は研修目標、日程、評価システムなどがしっかりと定められており、またカンファレンスが多く、入院診療・外来診療の場でも常にフィードバックがかかるなど教育的であることから、研修プログラムが非常にしっかりしている印象を受けました。

### 3.入院診療

シアトル小児病院の入院患者数は年間約 1000 人で当院とほぼ同じですが、疾患別で見ると CKD・ESRD が一番多く次いで AKI、高血圧、急性・慢性糸球体疾患という順であり、当院では急性・慢性糸球体疾患が一番多いことから、疾患層の違いを感じました。

また入院中の患者の治療方針などに関しては、毎日午前中に行われる回診で話し合われます。患者のプレゼンテーションはレジデントが、指示出し・カルテ記載などはフェローが行い、それをスタッフがチェックします。回診には医師・看護師だけでなく、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど各部署のメンバーが毎日参加していました。



←回診の一風景 (メンバーが多い！！)

### 4.外来診療

外来診療はまず看護師が患者さんに問診を行い、次いでフェローが診察を行います。フェローが行った診察の内容をスタッフと共有し、今後の方針を決め、最終的にスタッフが診察を行うので、1時間に 2~3 人ぐらいのゆったりとしたペースで行われます。

また外来は、医師のいる診察室に患者を呼び込む日本の一般的なスタイルとは違い、あらかじめ患者は先に診察室に待機していてそこに医師が診察にうかがう形であり、それによって患児や患者家族はリラックスした雰囲気の中で診察を受けることができているように感じました。



## 5.腎生検

シアトル小児病院と当院での腎生検の大きな違いは、①日帰りであること、②鎮静・鎮痛は自科ではなく麻酔科医が行うこと、③エコーガイド下経皮的腎針生検も自科ではなく放射線科医が行うことが挙げられます。当然毎回タイムアウトも行われており、私も最初の見学時に突然指名され思わずビックリしてしまいました。



腎生検は手術室で行われていた

	シアトル小児病院	当院
期間	日帰り (施行6時間後採血フォローあり)	入院 (1週間入院でその間採血フォロー複数回あり)
鎮静	麻酔科医が挿管管理下全身麻酔	腎臓内科医により挿管せず全身麻酔
穿刺	放射線科医がエコー下に施行	腎臓内科医がエコー下に施行
検体の管理	腎臓内科医が確認後病理に提出	腎臓内科医が確認後病理に提出
運動制限	施行後3~4週間	退院後2週間

## 6.透析

急性期の透析は各入院病棟で施行され、慢性の維持透析や維持透析中の患者が入院した場合は透析室で行われていました。

透析室にはその日の透析部門担当医が在中しておりなにかあればすぐに対応するシステムになっていました。

透析室は全部で 7 床あり横には家族と一緒に付き添うことが可能な場所が用意されていました。また各自にはスナックが用意されており、適宜 iPad や Xbox などを出し、患者終始リラックスした中で透析が行われていました。



透析室と患児に用意されたスナック

## 7.腎移植

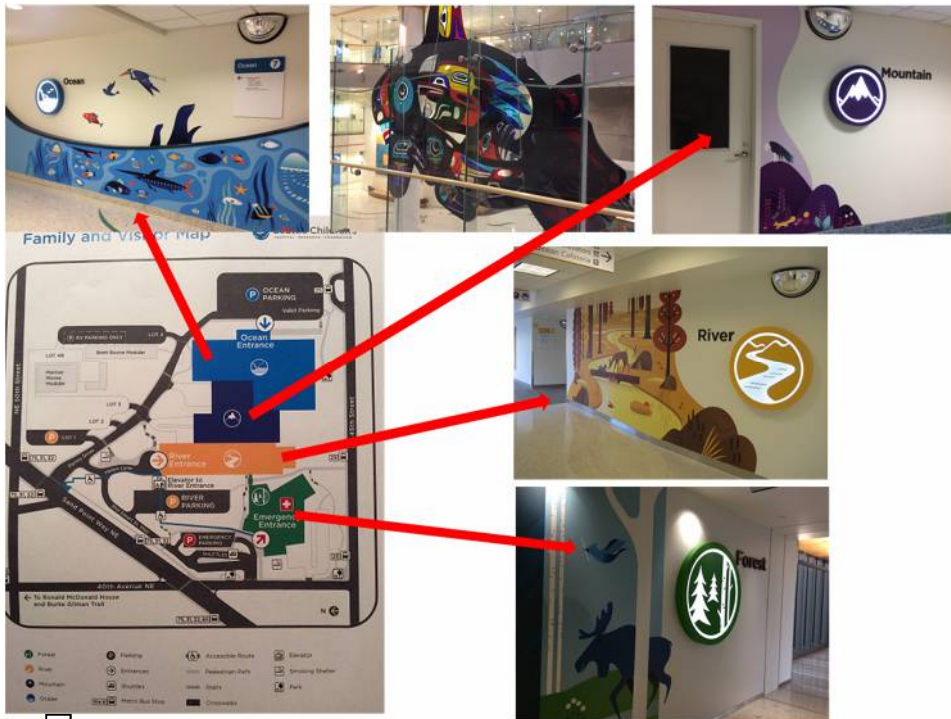
シアトル小児病院での年間の腎移植件数は 15~30 件で生体腎移植が献腎移植より少し多いということでした。しかし、残念ながら私が行った 4 週間では腎移植はなく実際に見ることはできませんでした。

## 8.おまけ

今回シアトル小児病院で研修をして感じたことは、病院自体が明るく、楽しい環境を目指していることです。またそこで働いているスタッフたちもみんな常に笑顔で挨拶をしい、毎日楽しく働いているように感じました。そこは僕たちも見習っていきたいところだと思いました。



院内の壁に飾られていた子供たちが作ったプラ板をつなげて作品にしたもの。  
遊び心が感じられる飾りになっていた。




院内はテーマにそって四つのブロック(Ocean(海), Mountain(山), River(川), Forest(森))に分けられ、それぞれにテーマの色がありこどもが病院を楽しめるように、かつ場所を覚えやすいように工夫されていた。


## 9.おわりに

この貴重な研修の機会を下された、長嶋院長、田中先生をはじめとする国際交流委員会の方々、病院関係者の方々に心より感謝いたします。またこの素晴らしい交流が来年以降も続き、さらによりよい研修ができることを心より願っています




 お世話になったシアトル小児病院の方々。みなさん非常に親切でした！！




 シアトル 2014 のメンバーたち。最高のメンバーでした！！